

「新本牧ふ頭第1期地区整備事業」の事前評価調書（案）に対する
市民からの御意見の内容とご意見に対する横浜市の考え方

○横浜市公共事業評価事前評価における市民意見

募集期間：平成31年3月1日（金）～平成31年4月1日（月）

市民意見：1件

お寄せいただいたご意見と、ご意見に対する横浜市の見解を、次のとおりまとめました。
横浜市公共事業評価委員会の審議結果とお寄せいただいたご意見を踏まえ、事前評価調書
（案）は修正無しとし、確定しました。

○お寄せいただいたご意見と横浜市の見解

ご意見の概要	ご意見に対する横浜市の見解
<p>海の埋め立ては、高度経済成長期やバブル時代の事業だと思っていたのですが、また新しい埋め立てが続くのは悲しいです。海運の発展は埋め立てがないと無理なのでしょうか。また、南本牧地区の埋め立てが終了せず、すべて完成後の運用もできていないのに、新しいふ頭用地の埋め立てを進めるのは早すぎませんか。新本牧ふ頭は、実際、これから20年後の埋め立て完成からの運用になると思いますが、それで国際競争力を高めるとかを理由にされても説得力が足りないと思います。20年後の海運はどうなっていると、考えているのでしょうか。ベイブリッジをくぐれない客船が増えてきて、いまの港湾機能では満足できない巨大コンテナ船が増えて、20年後新本牧ふ頭で対応できなくなったら、また埋め立てするのでしょうか。埋め立てが永久に終わらないです。</p> <p>また、公共事業の発生土を利用して埋め立てる計画ですが、一部報道で、JR 東海のリニア路線建設の発生土を横浜市が受け入れると見ました。横浜市内の公共事業で発生する土ではなく、他県からわざわざ土を持ってきてまで埋め立てを進める必要があるのでしょうか。まず埋め立てありきではなく、山下ふ頭のIRが進まないなら、先端ロジスティック拠点としてリノベーションすればいいと思いますし、ガンダムが来るなら、ロボットなりAIなりを使った、コンテナ置き場、倉庫としての機能以外にも充実した新・先端ロジスティック山下ふ頭に再開発すればいいと思います。総合的な横浜港のロジスティック力強化という面では、本牧Aふ頭もまだ再開発が実施できていないし、埋め立て計画を進める前に、20年後のわからない未来より早く効果が実現できることをやってからでもいいのではないかと思います。</p>	<p>経済のグローバル化の進展や東アジア諸港の急成長を背景として、我が国港湾の国際的地位の低下が懸念されている中、国内主要港のひとつである横浜港の国際競争力強化は、国策としても取組を加速させるべき重要な施策と位置づけられています。</p> <p>一方、国際海運動向においては世界的な船会社のアライアンスの再編とともに、海上輸送の効率化に資するコンテナ船の大型化、それに伴う寄港地の絞り込みなど、急速に変化を遂げています。</p> <p>こうした変化を踏まえつつ、国際コンテナ戦略港湾としての横浜港の国際競争力を一層強化するため、本牧ふ頭、南本牧ふ頭に加え、新本牧ふ頭の3つの拠点において、大型コンテナ船の受入れ施設の充実を図り、国際基幹航路の維持拡大等に取り組んでいくことは大変有意義であり、当該事業の実施が不可欠です。</p> <p>また、埋立てには、公共建設発生土や浚渫土砂を有効活用していますが、従来から本市内のみならず、市外で発生する土砂であっても本市の施策上、重要な事業から発生する土砂や、埋立用材が必要な場合には、公共的な事業に限り受け入れを行っています。東海旅客鉄道株式会社が実施する「中央新幹線整備事業」は全国新幹線鉄道整備法に基づき実施するもので、国家レベルで重要な事業に位置付けられています。当該事業の土砂を有効活用することで、本市としても新本牧ふ頭の早期整備につながることから、連携して進めることとしたものです。</p> <p>国際コンテナ戦略港湾として、国際基幹航路の維持拡大に向け、新本牧ふ頭の整備を着実に進めてまいります。</p>